

金曜日の夕方。日向新富駅から徒歩3分、三納代住宅の一角にある小さなお家に向かいます。玄関を入ると、食欲をそそるいい香りとともに、小見山真理子（こみやままりこ）さんが「いらっしゃい！さあ、入って」と笑顔で迎えてくれました。

ここは、小見山さんが運営する「みんなの居場所こぶたのおうち」です。子どもからお年寄り、誰もが気軽に来られる場所で、毎週金曜日に開かれる子ども食堂には、幅広い年代の人たち十数名と一緒に食卓を囲み、なごやかな雰囲気です。

もともと小見山さんは、新富町内で保育士として働き、読み聞かせボランティアなど、子どもに関わり続けてきました。子ども食堂をやりたいと思っただきつかけは10年以上も前、自宅の庭先で本が読める「文庫」を開いていた頃。ある朝早くに来た子どもに『ごはん食べてきたと？』と聞くと、『食べてない！』というので、おにぎりや卵焼きを作り食べさせたそうです。それ以来「子どもたちのお腹を

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#016 今月の新富人

いっぱいにしてあげたい。お腹いっぱいなら悪いことも考えないんじゃないか」という想いが小見山さんにありました。食事に困っている子が新富町にいるんですか？ 思わずその質問すると「いるんだよね、外から見えなくても、困っている子どもたちはいるよね」と答える小見山さん。

市内の支援者から「新富の家庭で月曜日まで食べるものがないから、代わりに持っていくてくれませんか」と依頼があったことから、給食のない土日の前

である金曜日に子ども食堂を開き、たくさん食べさせて、帰りにおにぎりを持たせるそうです。また、子ども食堂以外にも、昼食会を月2回行っており、いろんな人が一緒にご飯を食べられる場所となっています。

「落雷により自宅がなくなつたことや、更年期うつで気持ち落ち込んだこともあった」と話す小見山さん。みんな

1961年生まれ、佐土原在住。元保育士。読み聞かせボランティアや自宅での文庫開設など、本や子どもに関わり続けてきた。2014年に「みんなの居場所こぶたのおうち」を発足し、月2回の昼食会を始める。翌年より子ども食堂を開始。2021年11月、これらの活動に対し「未来みやざき子育て表彰」を受ける。本業は富田小学校と富田中学校の学校読書サポーター。

こぶたのおうち 小見山真理子さん

な居場所を作りたいという想いが強いのも、多くの人に寄り添える人柄も、こうした経験があったからかもしれません。

最近「たくさんの方が関わってくれる」という意味で、本場に『みんなの居場所』になつてきた」と感じる小見山さん。

野菜や米などを提供

してくる方、運営資金のためにアルミ缶を集めてくれる方、改修工事費用を寄付してくれる方、相談に乗ってくれる方、そして一緒に食事の準備を手伝ってくれる仲間など、さまざまな形で小見山さんの活動に力を貸してくれる人が増えています。地域のみんなで子どもたちを応援する気持ちを持ち、ほんの少しでもできることを実行する。それだけで、新富町はもっとすてきな町になると小見山さんは考えています。彼女が子どもたちに伝えたいことはたった1つ。「ちゃんとした大人じゃなくていい、無事に大人になってほしい！生きてほしい！」



●子ども食堂や昼食会へ参加したい方は「みんなの居場所こぶたのおうち」へご連絡ください。 小見山真理子 080・5282・2419

